

仕合わせ

の和

第183号

H. 29. 6. 1

(毎月1日発行)

法華經の眞実性

住職 谷川寛俊

世界の三大宗教というと、キリスト教・イスラム教・仏教をいいます。キリスト教は一言で言うところ、この世は汚れているから次の世(天国)で救ってもらおう。いわば浄土教の教えに似ています。

イスラム教は「アラー」の神を絶対神と崇め一日に五回もお祈りをします。何を祈るのか? 私達日本人ですと「家内が安全で、商売繁昌しますように」・「息子が孫が良い高校、良い大学に入って良い会社に就職できますように」等々、いわゆる自分本位の祈りであるようです。

勿論いけないということではありませんが、イスラム教では、自分の事を祈ってはならぬとされています。祈りはただアラーの神を讃えるだけです。「もし自分のことを祈りたければ一日五回の祈りの他の時間に祈りなさい」と説かれているのです。かつてあのイラン・イラクの湾岸戦争で、テレビなどのニュースで放映

されていたように、そろそろ祈りの時間だからと一時休戦して当時のフセイン大統領が神に祈りを捧げている姿が思い出されます。

ところで、我が日蓮聖人は、自分の事を祈られたでしょうか? そうではありません。「我れ日本の柱とならん。我れ日本の大船とならん」という祈りの御一生でした。

「国亡び人滅せば法を誰かあがむべき、法を誰か信ずべけんや。まず国家を祈りて後に仏法を立つべし(立正安国論)」と喝破されておられます。

まず第一に国の安泰を祈られたのです。

大聖人が佐渡ヶ島に三ヶ年御流罪になられた時、清澄(千葉・安房)の地におられる御信者さん達に与えられたお手紙の中に『佐渡御勘気抄(さどごかんきしよう)』という御文章があります。「もとより学問し候いしことは、仏教をきわめて仏となり恩ある人をも助けんと思ふ」と示されております。

いったい私達は何のためにこの世に生まれてきたのか? 日蓮大聖人のお答えは極めて簡潔明瞭でした。「仏に成るため」そして、「恩ある人を助けるため」。

「仕合わせの和」
と打ち込んで頂ければ、ホームページにつながります。
編集・発行 玉蓮山 眞成寺
編集部 谷川久仁子
TEL・FAX 0765-22-2268
携帯 080-3744-2523
こちらの番号でもお寺につながります。

これ以外に人生の道は無いといわれています。仏に成るためとは、あの金ピカの仏像のような姿になるといっている事です。その為には法華經・お題目を「身・口・意」つまり身体にたもち、口に唱え、心にしっかりと念じるといふ日々の振る舞い(日常生活態度)に徹するという事なのです。

皆さん普段よく拝読しておられる『欲令衆(よくりようしゅう)』の中に、「今此三界・皆是我有・其中衆生・悉是吾子」とあります。私達は元々、無限の可能性を秘めた尊い存在としてこの世に生まれてきました。つまり仏の子として生まれてきたのです。ですから皆仏に成れるのではなく、元々私達は仏なのです。つまり仏様なのだと思わして仏様のような生き方(振る舞い)をすることが大切なのです。ご承知のよう

に、日蓮大聖人はお釈迦様がお説きになられた全ての經典を幾度となく読破し、理解し、そして辿り着かれた最高の經典が「妙法蓮華經(法華經)」で

した。この妙法蓮華經こそお釈迦様がこの世にお生まれになった本懐であるという結論に到達されました。しかし学問だけで結論を出されたものではありません。法華經に説かれていることが果たして眞実かどうか、法華經を實踐する事によって、身をもって確かめられたのです。それが「大難は四ヶ度、小難は数知れず」といわれる迫害のご一生であった事を、もう一度認識しなければなりません。

